

北広島商工会だより

令和8年3月1日号
第151号

会員の状況

(部会の重複加入あり)

会員	751名(+0、-3)
商業	453名(+0、-2)
工業	348名(+0、-1)
青年	37名(+0、-0)
女性	41名(+0、-2)

※+加入人数、-脱退人数

★商工会だよりへの御社PR掲載、あるいはパンフレット・チラシ同封のご希望がありましたら、お気軽にお問い合わせください。(会員相互PR事業)

発行 北広島商工会事務局
責任者 事務局長 千葉 直樹

〒061-1121
北広島市中央5-7-2
TEL 011-373-3333
FAX 011-373-3212
shokokai@kitahironavi.or.jp
https://www.kitahironavi.or.jp

令和8年新年交礼会・大名刺交換会

今年も230人が参加し大盛況

令和8年1月9日、札幌北広島クラッセホテルで当商工会主催の「新年交礼会・大名刺交換会」を開催し、北広島市長 上野正三様、北海道議会議長 鶴羽芳代子様、北広島市議会議長 島崎圭介様をはじめ、関係機関・団体、会員など230人の参加をいただきました。



冒頭、山田久俊商工会長から、地域経済は依然厳しい状況にあるが、地域課題等への対応として、地域の「強み」を発信するとともに、事業者の身近な相談窓口として、北広島市と一体となり、関係機関とも連携して各種支援などに取り組むこと。また、事業者に寄り添った「地域社会の繁栄と会員事業の発展」を最大の目標に掲げ、引き続き「北広島創生・次代へつなぐ商工会」・地域経済の「羅針盤」としての役割を果たすため、知恵を出し合い、手を携え、ますます活力あふれる街(まち)となるよう邁進することなど、力強い挨拶がありました。

来賓祝辞では、代表として上野市長、鶴羽道議会議長よりご祝辞をいただき、島崎市議会議長の祝杯で開宴、新会員の紹介も行い、参加者は各テーブルを回り名刺交換や情報交換をするなどして交流を深めました。

最後は、日本政策金融公庫札幌支店 国民生活事業統轄の城龍二郎様が宴を締められ、新年最初の大きな行事が盛況で終了いたしました。

商業部会(部会長 南 仁)

長沼町「タヤけ市」の取り組みについて研修

1月19日、長沼町商工会館で、長沼町商工会主催イベント「タヤけ市」の取り組みについて幹事6名で研修し、タヤけ市実行委員長の小笠原聡氏、長沼町商工会経営指導員の大島努氏から説明を受けました。



「タヤけ市」は、平成8年に始まり長沼町本通商店街を会場に、現在は6月、7月、9月の年3回、「いつもの街並みが縁日に！」をコンセプトに開催されています。いつもは電気店を営んでいる事業者が、おでんを販売したり、

美容院がそば・うどんを販売したりと、参加店が通常営業とは違う商品販売し、非日常的な商店街の賑わいを演出しているそうです。以前は、お客様が土日に町外へ流出する傾向にありましたが、「タヤけ市」が開催される週末には商店街を訪れる方が増え、回を重ねるごとに内容の充実や規模も拡大され、町外からも集客できるようになったとのこと。また出店者にとっても売上が伸びたことから、意欲的に実施しているとのことでした。

小笠原氏は、「実行委員や警備など裏方作業はつらいこともある。しかし祭り翌週の月曜日に、小学生たちが登校中タヤけ市の話を楽しそうにしていると、やって良かったと思う。」と笑顔で語っていたのが印象的でした。

青年部(部長 仲野 誠)

青年部・青年部OB会 合同新年例会

1月16日、札幌北広島クラッセホテルで青年部と青年部OB会の合同新年例会を開催し、青年部員15名と青年部OB会員9名が参加しました。

参加者は、20代から80代までの幅広い世代の方々が集まりましたが、同じテーブルを囲み、お酒を酌み交わしながら新しい年の始まりを祝い、親睦を深めました。



余興の抽選会では、多くの方から品々の提供があり、例年よりも豪華な景品を用意できたこともあり、会場は大いに盛り上がり、OB会の皆様にも喜んでいただけました。

最後には、参加者全員で記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中で楽しい思い出を共有しました。

普段は顔を合わせる機会の少ないOB会の皆様と世代を超えて交流でき、大変貴重なひとときとなりました。

女性部(部長 山美 直美)

懇談会

1人1台端末から暑さ対策まで。

激変する教育現場の『いま』楽しい時間を共有

2月10日、北広島市教育委員会の吉田教育長をお招きし、懇談会を開催。12名が参加し、「北広島市教育委員会の仕組みと取組」をテーマに、私たちの暮らしに身近でありながら、意外と知る機会が少ない教育行政について理解を深めました。

最初に教育委員会について説明があり、教育委員会は市長から独立した執行機関であり、教育長を含む5名の委員による「合議制」によって運営されているそうです。教育長からは、5名の委員がそれぞれの専門的な知見や市民としての視点を持ち寄り、活発な議論を経て一つひとつの施策が決定されているとの説明を受けました。

また教育委員会の役割は、小中学校の運営といった「学校教育」だけではなく、図書館の運営、公民館での講座、スポーツ推進、文化財の保護など、子どもから高齢者まで市民が一生を通じて学び、成長し続けるための「社会教育」も重要な柱となっているとのこと。教育長からは、学校という枠組みを超え、地域社会全体が学びの場となり、多世代が交流することで街の活力を育むという、広義の教育ビジョンが語られました。

学校教育現場の取組では、ICT(情報通信技術)の導入による教育環境の変化についても説明がありました。現在は児童1人につき1台のパソコン等が完備されており、電子黒板を併用した授業に変化しているとのこと。これにより、児童一人一人の理解度の把握、教材準備の効率化や校務のデジタル化を通じて、喫緊の課題である「教員の労働時間削減」にも大きく寄与しているとのことでした。



さらに、現在西部地区で進められている「小中一貫校」の考え方の説明もありました。その最大の目的は、小学校から中学校への進学時に環境の変化へ適応できなくなる「中1ギャップ」を埋めることにあるそうです。9年間を見据えた一貫性のあるカリキュラムを編成するだけでなく、地域住民が学校運営に参

ふれあい雪まつり

女性部活動をPR

面する「コミュニティ・スクール」としての側面を強化することで、学校が地域の核となり、社会教育と学校教育が融合する新しい学びの形を目指しているそうです。

質疑応答では、近年の温暖化に伴う夏休みの延長や、校内の暑さ対策についての質問があり、来年度中に小学校3校へエアコンを設置する予定であるという具体的なスケジュールが示されました。

参加者からは、児童数の減少や授業内容の変化等「自分たちの時代とは教育現場が様変わりした」といった驚きの声が多く聞かれました。北広島市の子どもたちが最高の環境で学び、そして市民誰もが生涯学び続けられるよう尽力されている教育委員会の姿を改めて知る、大変有意義な懇談会となりました。

北広島ふれあい雪まつりが1月31日と2月1日の2日間開催され、女性部では子どもたちへのお菓子の配布を通じて、女性部活動をPRしました。



初日の31日は、あいにくの大雪で、会場を訪れる方はまばらでした。準備してお菓子のうち配布できたのは70個ほどでしたが、悪天候の中でも元気に遊びに来てくれた子どもたちの姿に、私たちも思わず笑みが出ました。

翌1日は一転して、まぶしいほどの快晴となり、午前中に実施されたチャレンジピックの効果もあり、会場内はたくさん家族連れで大賑わい。配布時間前から子どもたちが集まり、380個のお菓子を配布しました。

配布したお菓子の袋には、女性部活動を少しでも身近に感じてもらえるようお願いを込め、「ついついCosmos in Cosmos」をPRするシールを貼り付けました。

真っ白な雪の上で、お菓子を受け取った子どもたちが見せてくれた笑顔と元気な姿に、私たちもたくさんさんのパワ